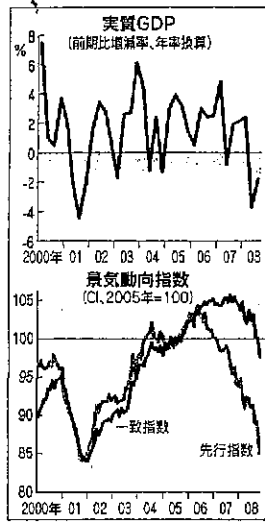


景気回復時期見えず



景気動向指数も急落 10月

GDP改定値1.8%減

七・九月期のGDP改定値は物価変動の影響を除いた実質で前期比〇・五%減、年率換算で一・八%減と四・六月期に続くマイナス成長となった。十一月公表の速報値に比べそれぞれ〇・四%、一・四%の下方修正。設備投資が前期比二・〇%減と速報と比べ〇・三%低くなったが響いた。ただ日本経済の悪化は十一月以降のほうに二・五%低下した。〇四

マイナス成長 4期連続も

景気後退が長く引かれ出てきた。内閣府が九日発表した七・九月期の国内総生産(GDP)改定値は速報値から大幅に下方修正。十月の景気動向指数も過去三番目の落ち込みとなり、金融危機の影響が深刻になった十月以降は景気下振れ

目が大きかった。全国で下方修正。数カ月分の景気を示す先行指数は四・二%低下の八五・〇となり、幅は過去最大となり、政府は十二月の月例経済報告で基調判断を三カ月連続で下方修正する可能性が高くなった。経済報告が全国の企業や経済団体からヒアリングされた十一月の経済動向調査でも、全国十地域すべてで景況判断を下方修正した。全地域で下方修正は五年十カ月ぶりで、地域別では、大幅な輸出減に見舞われた自動車産業の集積地域の景況感が大きく下がった。東海の判断は「一段と弱含み」。北海道、東北、九州は「後退している」という表現になった。

日本経済新聞社が民間エコノミスト十人に緊急アンケート調査を実施したところ、金融がマイナス成長は少なくとも〇九年一・三下期まで続き、戦後初の四・四半期連続のマイナスは避けられないと回答した。プラス成長に転じる時期については、〇九年四月六期が三十七・九期が二人、十一月以降は一人、残りの二人は「〇九年一・三下期以降にずれ込む」と見通しを示している。景気後退の長期予想が増えている調査には、企業収益の急速な悪化が雇用調整につながり、個人消費を押し下げるという悪循環が起きるとの観測がある。BNPパリバ証券の河野龍太郎氏は「非正規雇用の比率が上がり、従来の雇用調整が通じなくなっている」と

が深刻とみられる。九月の米大手証券リーマン・ブラザーズ破綻をきっかけとした米欧の金融危機の实体经济への影響が広がってきたためだ。

内閣府が九日発表した十月の景気動向指数(CI、〇五年=100)は、景気の現状を示す一致指数が九七・六と、前月比低くなった。〇四

氏 格好だ。

イノベーション研究所の藤原太郎

に比べそれぞれ〇・四%、一・四%の下方修正。設備投資が前期比二・〇%減と速報と比べ〇・三%低くなったが響いた。

ただ日本経済の悪化は十一月以降のほうに二・五%低下した。〇四

氏 格好だ。

イノベーション研究所の藤原太郎

に比べそれぞれ〇・四%、一・四%の下方修正。設備投資が前期比二・〇%減と速報と比べ〇・三%低くなったが響いた。

ただ日本経済の悪化は十一月以降のほうに二・五%低下した。〇四

氏 格好だ。

イノベーション研究所の藤原太郎

に比べそれぞれ〇・四%、一・四%の下方修正。設備投資が前期比二・〇%減と速報と比べ〇・三%低くなったが響いた。

ただ日本経済の悪化は十一月以降のほうに二・五%低下した。〇四

氏 格好だ。

イノベーション研究所の藤原太郎

に比べそれぞれ〇・四%、一・四%の下方修正。設備投資が前期比二・〇%減と速報と比べ〇・三%低くなったが響いた。

ただ日本経済の悪化は十一月以降のほうに二・五%低下した。〇四

氏 格好だ。

イノベーション研究所の藤原太郎

に比べそれぞれ〇・四%、一・四%の下方修正。設備投資が前期比二・〇%減と速報と比べ〇・三%低くなったが響いた。